

教育支援センターだより

第7号 発行日 平成23年1月15日

教育支援センターは、子どもたちの学校生活や家庭生活がより豊かになるために、さまざまな支援を行っています。

教育支援センター

教育相談

市内在住・在学の幼児から青少年までの子育てに関すること、こころや身体の発達のこと、学校生活に関することなどの相談に応じます。

臨床心理士によるカウンセリングや遊戯療法、必要に応じて発達検査や専門医のアドバイスを受けることができます。

スクールソーシャルワーカーが関係機関を結ぶ役割をしています。

- * 発達検査の結果については、家庭や学校でできる手だてに結びつくよう、ていねいなご説明を心がけています。
- * 夏休み以降は、来年度就学するお子さんの相談をたくさんお受けしました。

適応指導教室「チャレンジルーム」

不登校になっている児童・生徒のための教室です。

学校復帰に向けて、学習や集団活動など、児童・生徒の指導・支援を行っています。

来室できないお子さんに対しては「訪問支援」も行っています。

- * 2学期は教科学習以外に、藍染め体験、絵手紙教室、青梅での飯ごう炊さん遠足、保護者会なども行いました。

帰国・外国人教育相談室

帰国・外国人、国際結婚家庭の小・中学生を対象に、日本語指導・通訳・翻訳・教育相談などを行っています。気軽にご相談下さい。

水曜日の放課後は学習補充教室「すてっぷルーム」も実施しています。

- * 2学期は7名のお子さんが日本語指導を受けました。
- * 11月には帰国生保護者会を実施し、進路のこと、外国語保持のことなどが話題になりました。

★昨年11月2日に開催いたしました講演会の内容を抜粋して掲載いたします★
子育て中の保護者のみなさまに、お子さんの成長や発達を見守る上で参考としていただければ幸いです。

「子どもの社会性を育む子育てのコツ」

—くじける子はこうして育つ—

小林正幸先生（東京学芸大学 教職大学院 教授）

◆◆◆ 現代の教育問題の本質「子どもたちの非社会化傾向」 ◆◆◆

かつての子どもたちは、異年齢を含む集団遊びの中で、自分以外の様々なタイプの人と接し、相互に感情を交錯させながら人と人との付き合い方、人間関係の築き方を自然に体得していきました。

そうした子どもたちの様子に変化が現れたのは高度経済成長で世の中が豊かになった1970年代後半（昭和50年代）からです。

- | | | |
|-----------------------|---------------|-----------|
| ・1975～80年頃(昭和50～55年頃) | 放課後の異年齢遊びの消失 | 校内暴力 いじめ |
| ・1980年代(昭和50～60年頃) | 放課後の遊び集団の縮小 | 不登校の増加 |
| ・1990年代(平成2年～11年頃) | 放課後の遊び集団の質的变化 | “キレる子”の出現 |

世の中が豊かになり、おもちゃの数や種類が増えるほど、それを共有して遊ぶ子どもの人数はが減りました。ヒーロー物の高級玩具の普及やテレビゲームの普及がそれを決定的にしていきました。子どもたちの遊びが情緒（感情・心）の交流から情報交換遊びに変化し、全人的な人間関係から場面的人間関係に変わってしまったのです。



また、集団遊びがなくなって、3人や2人のように遊びの人数が減り、他者との関わりが減少した結果、参考とすべきモデルを見る体験、他者から評価を得る体験、他者の反応を自分に生かす体験が不足するようになりました。その結果、自分自身の捉え方があいまいになって、自分がどう見られるか対人関係で不安が増大し、集団の中で自分をさらけ出せず、集団内でストレスを感じる子どもが増加していきました。不登校問題とまさに軌を一にしているのです。

人間関係がわずらわしいということは、単に友人関係というだけではなく、結婚の問題にも影響しています。今の少子化現象は、非結婚者の増大が大きな原因となっています。犯罪のデータで見ても、少年犯罪は決して凶悪化したり増加したりはしていないのです。それよりも、今述べてきたような「非社会性」こそが問題と言えます。

子どもたちがより便利で豊かになり、幸せになるだろうと思って大人たちが懸命につくってきた社会が、結果として「社会性に欠ける子どもたち」を生み出してしまっているという事態を認識しなければなりません。



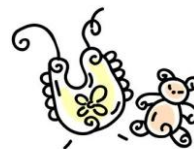
◆◇◆ 社会性を育むために大切なこと ◆◇◆

1. 感情は欲求と社会をつなぐ架け橋

欲求を伝えるために感情はあります。感情の表出（情動）がなければあらゆる行動は生まれません。だから感情を表現させることは大切なのです。ポイントは「その感情を適切に表出できるかどうか」にあります。

お腹が空く → 赤ちゃんが泣く → ミルクを与える
(欲求) (感情の表出)

自分の欲求と社会的要求の兼ね合いを判断し、社会的に通じる要求の仕方、「自分にもよい」「人にもよい」という線を理解できることが必要です。



2. 子どもの感情コントロールの問題を扱うために

(1) くじける子はこう育つ —— 感情コントロールを妨げる“3つのしつけ”

① 「怒るな」「悲しむな」と感情の表出を抑えつける。

<子どもを振り回す>

→ 子どもは上手な感情の表し方がわからないので、不快感の収め方が下手になり、感情表出を止められなくなります。「強いものには弱く」「弱いものには強く」となります。また、他者からの評価を気にし、対人不安が高くなります。

② 「怒らないように」「悲しまないように」と先回りして不快感を表出させない。

<子どもに振り回される>

→ 親が先に動揺してしまうパターンです。子どもはわがままになり、不快感によって周囲を振り回すようになります。不快感の経験が少ないので、集団の中での緊張や不安が高くなりやすくなります。

③ 感情の表出に付き合わない（感情に反応しない）。

<子どもの相手をしない>

→ 子どもに必要な養育・世話・保護を怠る（ネグレクト）タイプの接し方で子どもは感情の収め方、人との付き合い方が格段に下手で、あきらめ、うつ、無気力になりやすくなります。不安も高くなります。



す。
憂

(2) 感情コントロールの力を育てるためのかわり

子どもが感情をコントロールできるようになるためには、まず安全を確保することを最優先にしなければなりません。その上で子どもが感情をおさめた瞬間を大切に、認めてあげることが大切です。

また、日ごろから感情をことばで表現することを手伝ってあげることが大切です。感情の背後にある要求をことばで表現させたり、感情をクールダウンさせることばを一緒に見つけるような関わりを持つようにするとよいでしょう。

子どもが不快な顔をして帰ってきたら、不快な感情を表情から読み取り、ことばで表現するのを手伝ってあげましょう。「何があったの?」「どうしたの?」ではなく、「何かうかない顔をしてるね」「心配かな」「いらいらするね」「つらそうな顔してるね」「悲しいね」というような言い方をしてあげるのがよいでしょう。

当面の感情をクールダウンさせるために「気をそらす」という方法もあります。ただし、多用すると効果がなくなるので、使うタイミングと頻度には気をつけましょう。

★ 感情コントロールの段階 ★

- ① 安全の確保
- ② 感情をおさめた瞬間を大切に
- ③ 感情をことばで表現するのを手伝う
- ④ 「気そらし」

(3) 不快感情を適切に表出するために・・・上手に主張行動する力の獲得

- ① 不快な感情の中にある願いを見つけ出しましょう。
→ 「どうなりたいのか」「どうしたいのか」に注目し、「怒り」を「願い」に変化させる。
- ② その願いを“さわやかな自己表現”で伝えられるようにしましょう。
→ 「お願いする」「要求を断る」「自分を守る」

3. 生きる力としてのコーピング・スキル（ストレスや困難なことに対処していく力）

(1) ソーシャル・スキルとは 「人づきあいの技能」

スキル = 「体験の中で身に付けたもの」「学んできたもの」
コーピング = 「ストレスや困難なことに対処していくこと」

(2) 乗り越える力のスキル

- ① 現時点での自分の力を把握するため、「わかること」「わからないこと」「できること」「できないこと」という現状を具体的におさえましょう。
- ② 大きな目標を眺めながらも、身近で達成可能そうな具体的目標をつくりましょう。
- ③ その目標に進みましょう。
- ④ 進もうとした自分、出発点での自分を振り返り、昨日よりできた自分、昨日より伸びた自分を実感して喜ばしましょう。「わかった自分」「できた自分」を自覚していくことが、成功体験の積み重ねになるのです。
- ⑤ 次の具体的な目標設定へとつなげていきましょう。

☆ スキルやコーピングを身につけるには・・・

「自分で実際に人と関わって」
「適切なモデルの振る舞いを見て」
「居心地のよい雰囲気の中で」
「良かったと思えることを繰り返す」



☆ そのために保護者は・・・

- ・ 人付き合いのモデルとなる
- ・ 家庭に居心地の良い雰囲気をつくる
- ・ 子どもが他者と関わる機会を増やす
- ・ 人間関係の中でよかったと思える体験を数多く伝える



小林先生には、このほかに「未来で求められる力」などにも触れていただきましたが、紙面の都合で今回は省かせていただきます。

発行	武蔵野市教育委員会 教育部教育支援課 教育支援センター
所在地	〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町4-11-37
電話番号	0422-60-1899 FAX 0422-60-1922